|るとともに、ピーエスコ

ングを活用する「戦略的

講演・事例を紹介した。 事例について」と題して

要を把握する「計画準

貫した対応を可能にし

の要因を極力削減し、

山崎氏は「CO゚排出

ヘルスモニタリ

研究開発事例を紹介。従

腐食に対しては補修

隆太設計GLは、「コンク

インフラを対象に現地踏 湾・トンネルなど多様な には、①道路・河川・港 いることを紹介。具体的 ワンストップで手掛けて ら補修・補強設計までを

> や品質試験、劣化原因推 計画から調査、外観調査 替え設計」を提案。 復が困難な場合には 強設計」、補修で機能回

センター設計部の邉木薗

さらに、同社関西技術

太 平 洋 コンサルタント

コンクリート構造物維持管理の講演会開催 築」が不可欠であると提

術について」を開催。パネル展示も行い、盛況を博した。 阪市中央区のアットビジネスセンター大阪本町において、 断技術CPDS講演会「コンクリート構造物の調査・診断、 太平洋コンサルタント(東京都干代田区、梶尾聡社長)は8月5日、大 断、補修設計技、コンクリート診

CN支援事業の取り組み」

|のご講演、建設資材サプ|れば幸いだ」と述べた。 ている。本日は森川先生 グループの一員として、 コンサルタントを目指し|る。 知見を得て皆様のお いただける親しみやすい 成分分析や評価を担い、 「当社は太平洋セメント | ライヤーの太平洋マテリ 関連製品について紹介す アルと共に、各専門分野 ル(CN)への取組みや からカーボンニュートラ 仕事にお役立ていただけ

芳賀執行役員

芳賀氏は、政府が掲げ

S)技術の開発が不可欠

の固定化に寄与するコン

て

減やリサイクル、CO2

効利用・貯留(CCU

であると強調した。

務執行役員が「CN支援 芳賀和子常務執行役員

事業の取り組み」と題し

あり、CO宮の回収・有

介。セメント使用量の低

利用する「カーボンリサ



まずは、

同社CNプロジ

次に一般講演として、

ェクト担当の芳賀和子常

を踏まえ、単なるCO2

|円規模の「グリーンイノ

関連支援事業を説明し、

現状を説明した。

Nプロジェクトの概要や

して創設された総額2兆

さらに、国の支援策と

を提示。また、自社のC

を46%削減」という目標 13年度比で温室効果ガス る「2030年度までに

調

查·診断方法

特性を解説。さらに、神 鋼鋼線工業との共同研究

一破断事例、グラウト境界 価フローなど、 る既設PC橋の信頼性評 凍結防止剤散布下におけ 高pH環境下での腐食・ を明らかにした。また、 部での腐食進行の実態、 幅広い知 鋼材の詳細点検に基づく 理」や、三井住友建設と C鉄道橋の予防保全管 いても成果を紹介した。 ニタリング方式によるP モニタリング技術」につ センサーを用いたPC橋 共同研究した「FBG光

(第三種郵便物認可)

に講話を行った。

双方の影響を踏ま よるPC鋼線の破断メカ 物の信頼性向上に向けた ニズムや遅れ破壊の特徴 続いて、 安全性・信頼性評価を行

学の森川英典名誉教授が よる崩落事例を紹介。飛 PC鋼線の腐食や破断に 塩害劣化を有するコン おける重大損傷事例・ 秋川氏はまず、PC橋 長年の研究成果を基

びを計測し劣化レベルを一で開発した「亜硝酸リチ めた「外ケーブル張力モ ウム水溶液を用いたグラ とも紹介された。さら おける適用実績があるこ までに全国で162橋に に、JR西日本などと進

安全性評価と信頼性向 塩害劣化PC橋の具体策示す

井章弘グループリーダー ンター西日本技術部の梶 補修設計事例につい 関西技術センター・邉木薗隆太設計GL

化学分析の



続いて、西日本技術セ 対応するための分析・診 法」について発表した。 トの硬化不良や強度不 ト構造物の調査・診断方 足、塩害といった課題に 梶井氏は、コンクリー

ロアナライザー)

(GL) が「コンクリー 断手法を紹介。配合推定 技術を体系的に解説し

展、効果的なグラウト補略の確立、延命技術の発 技術の導入による点検戦 言。さらに、 非破壊検査

とその対策の検討など、 具体的な課題を挙げた。 的評価、合理的なモニタ イオンによる腐食リスク

講演を締めく

修戦略の確立と長期的検 電気防食工法の持続

る」と結び、 が急務であ 持管理の実現 持続可能な維 の戦略的かつ



(X線回析法) 、SEM TG-DT 太平洋プレユ 1 ロックスGX

体炭素計)、X線CT、 EPMA(電子線マイク A(熱量量示差熱分析装 メータ、TOC(全有機 、水銀圧入式ポロジ

-タを交えて示した。

自社が有する多様な試験

みである各種試験・分析

費算定を行う「補修・補 計図·数量計算書·工事 づく補修工法の決定、

架

業部の山崎寛部長

小林取締役 向上していると、実験デ 比べて低発熱性に優れ、 説明。加えて、従来品 らに拡大していることを 支承部や鉄骨柱基礎、 械基礎に加え、用途がさ た」と述べ、従来の橋梁 いった耐久性能が大幅に 中性化抑制・遮塩性と の強度性能、寸法安定性 圧縮強度や付着強度など

平洋プレユーロックスG 素型無収縮モルタル「太 執行役員)が、同社の低炭 太平洋マテリア 性を紹介した。 外壁診断システム(WS 点検ロボットを活用した ダイヤモンド技建の打診 サーベイシステム協会・ 役執行役員が、ウォール 最後に、小林信一取締 太平洋コンサルタント

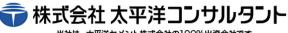
執行役員で関西技術セン 低炭素型コンクリート 使用原則化!!



低炭素・脱炭素コンクリートの性能評価

CO2固定化/再生骨材の試験 環境配慮型コンクリート開発・認定支援

コンクリートのカーボンニュートラル



当社は、太平洋セメント株式会社の100%出資会社です。

お気軽に お問い合わせください! 「 03-6630-3811

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-9 コンフォール安田ビル3階



NEXCO試験方法ご相談ください!

コンクリート構造物・鋼構造物 調査・診断 コンクリート試験、コンクリートコンサルティング

📦 株式会社 太平洋コンサルタント

当社は、太平洋セメント株式会社の100%出資会社です。 お気軽に お問い合わせください! **03-6630-3811**



〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-9 コンフォール安田ビル3階